

フードドライブの取組

ー全学で取り組む地域貢献活動ー



キーワード

食品ロス削減・貧困対策・地域貢献

○取り組んだきっかけ

近年、SDGs(持続可能な開発目標)を念頭に置いた社会活動や消費行動に注目が集まる中、日本では年間523万トン以上*の食品ロスが発生し、大きな社会問題となっています。一方、コロナ禍を経て所得格差が拡大し、明日の食事にも事欠く人も増えている現状にあります。これらの課題解決に寄与すべく、本学でも2023年度より「フードドライブ活動」を開始しました。

*令和3年度推計値:農林水産省・環境省公表

フードドライブとは…

家庭で余っている食品を集めて、食品を必要としている地域のフードバンク等の生活困窮者支援団体、子ども食堂、福祉施設等に寄付する活動

○活動の目的

- (1) 本学の地域貢献・社会貢献の機会とする
- (2) 持続可能な未来に向けた行動を一人ひとりが考え実践する契機とする

○具体的な内容

本学では、常設で回収ボックスを設置するのではなく、9月と1月の年2回、期間を定めて活動を実施しました。特定非営利活動法人フードバンクふじのくに等の定める、回収食品の条件・方針等に従い、各キャンパスで学生スタッフとともに食品の回収を行いました。

○ 回収できるもの

- ・賞味期限が2カ月以上先のもの
- ・常温保存が出来て未開封のもの

代表例

- ・レトルト食品
- ・缶詰
- ・カップ麺
- ・即席みそ汁
- ・ふりかけ
- ・お菓子 等

× 回収できないもの

- ・賞味期限が2カ月未満のもの
- ・開封済みのもの
- ・日本語表記が無いもの

代表例

- ・生鮮食品
- ・砂糖、塩
- ・健康食品
- ・アルコール
- ・冷凍・冷蔵のもの 等

その結果、9月の活動では、草薙キャンパスで165品、浜松キャンパスで39品、合計204品の食品が集まりました。また、1月の活動でも、静岡キャンパスで109品、浜松キャンパスで49品、合計158品が集まりました。

集まった食品は、フードバンクふじのくにや浜松市社会福祉協議会へ寄付しました。



○期待される効果

活動に参加した学生スタッフからは、「このような活動が地域に貢献されていくのだなと実感できた」との感想が寄せられました。中には、「食品の回収だけでなく、集めた食品を必要とする団体へ届ける活動にも参加してみたい」という学生もあり、活動を通して、食品ロス削減の取組に対する学生の意識・関心を高めることができました。

本活動は次年度以降も継続して実施し、学生・教職員の「地域貢献」の意識醸成を図ってきたいと思います。



担当者

地域貢献センター

連携先

特定非営利活動法人フードバンクふじのくに
浜松市社会福祉協議会